

# 日本人と外国人日本語学習者の 敬語使用に関する考察

—— 敬語表現調査の結果の分析を中心に

魏 春 娥

## 1 はじめに

1995年から文化庁が毎年実施している「国語に関する世論調査」は敬語、敬語表現に関する問題を扱っている。その結果、誤用とされる敬語表現を適切と認識している人は意外に多い。また、同調査は北原（2004）、萩野（2005）、井上（2007）など様々な敬語表現を指摘し、敬語を論理的に解釈している。これを見ると適切ではない敬語が多く使われていることが分かる。

いわゆる間違っている敬語はただの言い誤りや覚え違いの「間違い」なのか、「乱れ」なのか、「ゆれ」なのか、また「慣用」なのか、断言しがたい。

井上（1999）は、「ことばは社会と同じように移り変わるものである。『万物は流転する』というが、これは敬語にもあてはまる。最近でも、敬語の変化、誤用はいつも指摘される。それを発達と見るか乱れと見るかは、もの見方の違いとあってよい」と述べている。確かに、誤用から正用への動きは連続的で区切るのが困難である。

そこで、日本人と外国人日本語学習者を対象に、日常生活でよく耳にする具体的な敬語表現のアンケート調査を行った。本調査では、例文を示し、例文の表現について適切か否かを判断した上で、適切ではない場合は、適切と思う表現を求めた。

本稿では、敬語表現の実際の使用状況を明らかにすることに重点を置き、そのうえで、参考文献を引用しながら、例文の敬語表現の由来や変化を見ながら、分析していく。

## 2 先行研究

毎年文化庁によって行われている「国語に関する世論調査」には、敬語にかかわる質問が設けられている。これまでに敬語使用意識に関する調査（国立国語研究所 2003等）もなされてきた。また、菊地（1997）も敬語について大規模なアンケート調査を実施している。

敬語は日本語学習者が学習するうえで抱えている大きな課題の一つである。日本語学習者を対象とした敬語に関するアンケート調査も実施されている。宮岡・玉岡（2002）は上級レベルの中国系日本語学習者と韓国系日本語学習者の敬語習得について研究している。宮田（2006）は、日本語学習者と日本語母語話者の比較をしたが、内容は敬語動詞に限定した研究である。藤原（2011）は、2人の台湾人と2人の韓国人の日本語学習者を対象とし、日本語学習者が敬語に対していかなる意識を持つかについて調べている。しかし、日本語学習者の敬語に関する使用意識と使用実態を日本語母語話者と比較した研究はまだ少ない。

### 3 敬語の種類と役割

#### 3-1 日本語における敬語の種類

一般的には、敬語は従来の3分類と新しい5分類の分け方がある。従来の学校教育では敬語を尊敬語・謙讓語・丁寧語の3つに分類している。これに対して、2007年2月に文化審議会（文化庁の調査審議機関）の答申した「敬語の指針」によると、敬語を尊敬語・謙讓語Ⅰ・謙讓語Ⅱ（丁寧語）・丁寧語・美化語の5分類としている。この5分類は従来の3分類の分け方と対立するものではなく、従来の考え方に基づいたものである。これらの敬語の5分類と従来の3分類とは、以下のように対応する。

#### （新しい敬語の5分類と従来の3分類）

5分類		3分類
尊敬語	「いらっしゃる・おっしゃる」型	尊敬語
謙讓語Ⅰ	「伺う・申し上げる」型	謙讓語
謙讓語Ⅱ（丁寧語）	「参る・申す」型	
丁寧語	「です・ます」型	丁寧語
美化語	「お酒・お料理」型	

#### 3-2 敬語の役割と重要性

文化庁の調査審議機関である文化審議会は、敬語に関する審議と、建議・答申を3度行っている。1952年4月の「これからの敬語」（建議）と2000年12月の「現代社会における敬意表現」（答申）および、2007年2月の「敬語の指針」（答申）である。この「敬語の指針」は敬語の役割と重要性について次のように述べている。

敬語は、言葉を用いる人の、相手や周囲の人やその場の状況についての気持ちを表現する言語表現として、重要な役割を果たす。敬語は、話し手が、相手や周囲の人と自らの間の人間関係をどのようにとらえているかを表現する働きも持つ。社会生活や人間関係の多様化が深まる日本語社会において、人と人が言語コミュニケーションを円滑に行い、確かな人間関係を築いていくために、現在も、また将来にわたっても敬語の重要性は変わらないと認識することが必要である。

また、井上(1999)は、「敬語の基本機能は、心理的距離を表すことにある。つまり、『敬遠』である」、「敬語は『教養のバロメーター』としての機能があり、敬語の使い方でも育ちや人柄まで判断されることがある」と敬語の役割と重要性を述べている。

### 4 アンケート調査

2012年6月上旬から同年9月下旬にかけて、「日本人と外国人日本語学習者の敬語に関するアンケート調査」を行った（別添資料参照）。本調査は、日本人と日本語学習者の日本語の敬語に関する意識及び使用実態を把握するとともに、敬語に関する問題点を明らかにして、今後

の敬語教育、また日本語学習者の敬語習得に役立てることを目的とする。

調査は、1部の敬語に関する意識と2部の敬語表現の調査の2部から構成されている。(本調査の1部については山口大学の『文学会志』第63巻(2013)に掲載)有効回答者数は402名、その内訳は次の通りである。

性別 (単位:人)

	日本人	日本語 学習者	合計
男性	76	43	119
女性	188	95	283
合計	264	138	402

職業別 (単位:人)

	日本人	日本語 学習者	合計
学生	154	138	292
社会人	110	0	110
合計	264	138	402

年代別 (単位:人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
日本人	72	96	25	16	22	33	264
日本語学習者	2	117	19	0	0	0	138
合計	74	213	44	16	22	33	402

日本人の出身別 (単位:人)

山口	岡山	広島	福岡	長崎	鳥根	佐賀	大分
130	20	18	17	14	10	9	9
愛媛	宮崎	兵庫	大阪	長野	鳥取	茨城	愛知
6	4	4	3	2	2	2	2

京都、沖縄、静岡、熊本、高知、宮城、神奈川、徳島、鹿児島、香川、岐阜、北海道はそれぞれ1人。合計264人。

国籍別 (単位:人)

日本	中国	台湾	韓国	タイ	アメリカ	スペイン	合計
264	109	14	10	3	1	1	402

## 5 敬語表現調査の結果及び考察

### 5-1 敬語表現調査の結果 ——アンケート調査に基づく分析

本調査では、日常的によく耳にし、目にする敬語表現の例文を12作成した。それぞれについて、適切と思った場合は、○をつけてもらい、適切ではないと思った場合は、適切ではないと思う箇所に下線を引いて、その下に適切と思う表現を記入してもらった。

敬語表現の例文の集計結果を以下の表に示す。例文の「集計結果」の表の中で、適切だと思った場合は、「適切」で示し、適切ではないと思った場合は「不適切」で示す。また、「例文と訂正文の内訳」の表の中で、訂正文を分類し、「◎」「○」「△」「×」のマークをつけた。「◎」は、例文に対して期待された、適切な敬語表現である。「○」は文法的な間違いはないが、敬

意度が期待された表現より多少低かったり、敬語を過剰使用していたり、文章自体が冗長な訂正文である。「△」は、文法的な間違いはないが、尊敬語を使っていない訂正文や文脈からずれているものである。「×」は、文法的な間違いがある表現、また、例文の問題点に気付かず、問題ない箇所を訂正したものである。

なお、引用した回答者の意見は、アンケートの自由記述欄から得たものである。

敬語の不適切な表現は、文法的な誤用、敬語の過剰使用、尊敬語と謙譲語の混同などである。本稿では、謙譲語を尊敬語として使う例のみを取り出して検討する。例文6、10は謙譲語Ⅰの「ご出席する」、「ご利用する」を尊敬語に間違っ使用例である。例文11は謙譲語Ⅱ（丁重語）の「参る」を尊敬語に間違っている例である。例文9はやや複雑で、「食べる・飲む」の意の謙譲語「いただく」の間違いの例である。

### 5-1-1 例文6：明日の新年会にぜひご出席してください。

例文6は、新年会に出席する人の動作に尊敬語を使うべきで、「ご出席してください」を用いるのは適切かどうかが問題点になる。例文6の集計結果を〈表1-1〉、〈表1-2〉に示す。

〈表1-1〉例文6の集計結果（％）

	適切	不適切
日本人全体	36.0	64.0
日本人学生	38.3	61.7
日本人社会人	32.7	67.3
日本語学習者	54.3	45.7

例文6の集計結果を見ると、不適切と思った人は、日本人学生61.7％、日本人社会人67.3％となっている。両者の差はあまり見られなかった。日本語学習者は、45.7％で、日本人よりかなり低い。つまり、日本語学習者は例文6の表現に違和感を感じる人は日本人と

比べると少ないと言える。「例文6、間違っていないと思いますが、この言い方のほうがやわらかいのではないのでしょうか。」（台湾学生、30代女性、N1）という記述から、日本語学習者は日本語レベルの高い者でも敬語を間違えることが多いということが分かった。

「ご出席してください」は謙譲語の「ご出席する」に尊敬語「～てください」がついた形である。「お（ご）～する」は相手に影響が及ぶ自分自身の行動に使って、自分を高めず、動作の向かう先を高める謙譲語である。和語動詞の場合は「お+和語動詞の連用形+する」の形である。例えば、「お待ちする」があげられる。漢語動詞の場合は「ご+漢語動詞+する」の形となるわけである。例えば、「ご案内する」があげられる。例文6は尊敬語を使うべきところ、「ご出席してください」のように、謙譲語と尊敬語が混用されている表現を用いており不適切である。「ご出席してください」のような表現について、井上（2007）は、明らかな誤用であると指摘している。

また、奥秋（2007）は、「相手の動作を高めて表すべきところで、逆に動作を低めて表す『敬語』を使うことに驚く」と述べ、「ご出席してください」のような誤り表現を「転倒型」誤用と呼んでいる。

一方、菊地（1997）は、明らかな誤用と認めている一方で、「お（ご）～する」の謙譲表現は尊敬語としてよく使われるため、「『お（ご）～する』の尊敬語化」という説を主張している。

では、例文6はどのような表現をすればよいのであろうか。要求・依頼表現によく使う漢語

動詞の尊敬語として、いくつかの適切な例を次に挙げる。

- ・「ご出席ください」「お(ご)～くださる」の尊敬語である。
- ・「ご出席になってください」「お(ご)～になる」+「～てください」の尊敬表現である。
- ・「ご出席なさってください」「お(ご)～なさる」+「～てください」の尊敬表現である。
- ・「出席なさってください」「～なさる」+「～てください」の尊敬表現である。

例文6と訂正文の内訳を〈表1-2〉に示す。

〈表1-2〉例文6の訂正文の内訳

実数(%)

例文と訂正文	日本人全体	日本人学生	日本人社会人	日本語学習者
～ご出席してください(例文)	95 (36.0)	59 (38.3)	36 (32.7)	75 (54.3)
～ご出席ください(◎)	83 (31.4)	50 (32.5)	33 (30.0)	51 (37.0)
～出席してください(○)	27 (10.2)	9 (5.8)	18 (16.4)	3 (2.2)
～ご出席になってください(◎)	8 (3.0)	7 (4.5)	1 (0.9)	2 (1.4)
～ご出席なさってください(◎)	17 (6.4)	13 (8.4)	4 (3.6)	0 (0.0)
～ご出席いただけないでしょうか(○)	5 (1.9)	1 (0.6)	4 (3.6)	3 (2.2)
～ご出席お願いいたします(○)	10 (3.8)	5 (3.2)	5 (4.5)	3 (2.2)
～ぜひお越してください(○)	8 (3.0)	2 (1.3)	6 (5.5)	1 (0.7)
～いらっしゃってください、 ～いらしてください(○)	8 (3.0)	7 (4.5)	1 (0.9)	0 (0.0)
～ご参加してください(×)	3 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.8)	0 (0.0)
合計	264 (100)	154 (100)	110 (100)	138 (100)

例文6の訂正文のうち、「～ご出席ください」が一番多かった。日本人学生、日本人社会人、日本語学習者いずれも3割台であるが、日本語学習者の方がやや多かった。漢語動詞を尊敬語にする場合は、「ご～ください」の尊敬表現がよく使われると考えられる。しかも、日本語学習者には、「～ご出席ください」と訂正した人は37%で多く、それ以外の訂正文は確かに少数である。中国人が用いる日本語教科書冷・丸山(2010)には、漢語動詞の尊敬語については「ご～ください」という尊敬表現しか載っていない。したがって、日本語学習者には、漢語動詞の尊敬語については、「ご～ください」がよく知られており、「ご～になる」「ご～なさる」の敬語表現はあまり知られていないと言える。

二番目に多かった訂正文は「～出席してください」となっている。日本人社会人は日本人学生と日本語学習者と比べると多かった。「～ご出席になってください」「～ご出席なさってください」の訂正文は例文6に対して、いずれも適切な敬語表現である。しかし、このように訂正したのは日本人学生が多い。例文6に対して、「～ご出席ください」「～ご出席なさってください」「～ご出席になってください」はいずれも期待される漢語動詞の正しい敬語表現であるが、「～ご出席ください」はよく使われ、「～ご出席なさってください」「～ご出席になってください」はより複雑な敬語表現である。その3つの訂正文の内訳から、日本人社会人は日本人学生、日本語学習者より複雑な敬語表現を身につけていることが分かった。

「～いらっしゃってください、～いらしてください、」という訂正文もあった。これは使われる機会がたいへん多いが、語形が長いので、動詞の活用形としては例外的に「いらして」という形も認められているのである。「いらっしゃる」は「来る・行く・居る」の尊敬動詞で、「いらして」「いらっしゃって」は「来てください」と「行ってください」の両方の意味がある。「～ご参加してください」の訂正文は例文と同じ理由で誤りである。

#### 5-1-2 例文10：本日クーポン券がご利用できます。

例文10は、店側が客に「ご利用できます」を用いるのは適切かどうかが問題点になる。例文10の集計結果を〈表2-1〉、〈表2-2〉に示す。

〈表2-1〉例文10の集計結果（％）

	適切	不適切
日本人全体	59.5	40.5
日本人学生	69.5	30.5
日本人社会人	45.5	54.5
日本語学習者	79.0	21.0

例文10の集計結果を見ると、不適切と思った人は、日本人学生30.5％、日本人社会人54.5％となっており、日本人社会人の方が多かった。日本語学習者は21.0％で、つまり約8割の人が適切と思っている。例文10の表現「ご利用できます」に対して、違和感を感じる人は

日本人社会人が一番多く、次は日本人学生、次は日本語学習者の順である。

1997年の「国語に関する世論調査」は、「この電車には御乗車できません」に対して、正しくないと感じた人は3割に過ぎなかった。本調査の結果と比べると、「ご利用できます」を不適切と思った日本人学生の割合とほぼ同じであるが、日本人社会人とは24ポイントの差があった。つまり、日本人社会人は、「ご利用できます」に違和感を感じる人は半数以上であった。

井上（1999）は、「お（ご）～できる」について次のように述べている。

尊敬表現「お～になる」について、「できる」という可能の意味を表すためにはどう言ったらいいだろうか。正解は「なる」を「なれる」に変えた「お～になれる」である。これは理論的に考えると分かる。「お（ご）～できる」は、謙譲語「お（ご）～する」の可能の言い方なのだ。謙譲語「お（ご）～する」の「する」の部分をも可能の言い方にするためには、「できる」という形を使うしかない。謙譲語の可能は、「お（ご）～できる」しか使われない。相手に恩恵を与えるような文脈で「明日までにお届けできます」「ご用意できます」のような例だ。これと同じになるとまずいので、「お～できる」は、尊敬語には使えないわけだ。正用である尊敬語の「お（ご）～になれる」は、しかし長かったらしい。かくして「お（ご）～できます」という言い方については、尊敬と謙譲の同じ言い方が、慣用として認められつつある。

井上（1999）は「お（ご）～できます」は、尊敬と謙譲の同じ言い方が慣用として認められつつあると指摘しているが、「敬語の指針」（2007）は、『お（ご）～できる』というのは、謙譲語Ⅰの形である『お（ご）～する』の可能形である。『自分が届けることができる』ということであれば、『お届けできる』、『自分が説明できる』ということであれば『御説明できる』で

よいが、相手の行為であれば、尊敬語を使うべきところである」と述べている。つまり、現時点で、「お(ご)～できます」は相手の動作に尊敬語として使うのは誤りである。

例文10と訂正文の内訳を〈表2-2〉に示す。

〈表2-2〉例文10の例文と訂正文の内訳

実数(%)

例文と訂正文	日本人全体	日本人学生	日本人社会人	日本語学習者
～ご利用できます(例文)	157 (59.5)	107 (69.5)	50 (45.5)	109 (79.0)
～ご利用いただけます(◎)	47 (17.8)	13 (8.4)	34 (30.9)	14 (10.1)
～ご利用になれます(◎)	34 (12.9)	22 (14.3)	12 (10.9)	10 (7.2)
～ご利用いただくことができます(○)	2 (0.8)	2 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
～利用できます(○)	21 (8.0)	7 (4.5)	14 (12.7)	5 (3.6)
～券をご利用できません(×)	3 (1.1)	3 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	264 (100)	154 (100)	110 (100)	138 (100)

〈表2-2〉の集計結果を見ると、期待された表現「～ご利用いただけます」と訂正した人は日本人社会人が一番多く30.9%である。また適切な表現「～ご利用になれます」と訂正した人は日本人学生が一番多く14.3%である。日本語学習者にも「～ご利用いただけます」、「ご利用になれます」と訂正した人がいた。「～利用できます」と訂正したのは日本人社会人が一番多く、12.7%である。文法上問題はないが、尊敬語を使っておらず、丁寧語しか用いていないため、敬意が不足すると考えられる。「～ご利用いただくことができます」と訂正した人は日本人学生に2人いる。やや長い表現であるが、例文10に適切な表現と言える。また、「～クーポン券をご利用できます」を「～クーポン券をご利用いただけます」と訂正した日本人学生が3名いたが、「～クーポン券をご利用いただけます」は例文と同じ理由で不適切である。

### 5-1-3 例文11：どちらから参られましたか。

例文11は、相手の動作に尊敬語を使うべき文脈で、「参られましたか」を使うのは適切かどうかが問題点になる。例文11の集計結果を〈表3-1〉、〈表3-2〉に示す。

〈表3-1〉例文11の集計結果(%)

	適切	不適切
日本人全体	22.3	77.7
日本人学生	26.0	74.0
日本人社会人	17.3	82.7
日本語学習者	31.9	68.1

例文11の集計結果を見ると、不適切と思った人は、日本人学生、日本人社会人それぞれ74.0%、82.7%となっており、不適切と思っている人が多い。とりわけ日本人社会人は8割以上である。一方、日本語学習者は68.1%で、日本人学生、日本人社会人より低い選択率となっている。つまり、例文11の表現に違和感を感じる人は日本人社会人が一番多く、次は日本人学生、日本語学習者である。

「参られる」は謙讓語Ⅱ(丁重語)の「参る」+尊敬語の「～れる」の形である。古い時代は二方面敬語の場合に使われたが、現在は「参る」が謙讓語Ⅱで、自分側の動作を相手に対し

て丁重に述べる時使うべきで、相手の動作には使えない。また、敬語表現には、「動詞の未然形＋～(ら)れる」という形式があるが、すべての動詞に「～(ら)れる」を付ければ尊敬語になるわけではない。つまり、謙譲語「参る」に尊敬語の「～(ら)れる」を付けても尊敬表現にはならないのである。したがって、例文11は、相手に「参られましたか」を使うのは誤りである。例文11の適切な敬語表現は「来る」の尊敬語「いらっしゃる」を使うべきである。

例文11と訂正文の内訳を〈表3-2〉に示す。

〈表3-2〉例文11の例文と訂正文の内訳

実数 (%)

例文と訂正文	日本人全体	日本人学生	日本人社会人	日本語学習者
～参られましたか (例文)	59 (22.3)	40 (26.0)	19 (17.3)	44 (31.9)
～いらっしゃいましたか (◎)	136 (51.5)	84 (54.5)	52 (47.3)	53 (38.4)
～いらっしゃられましたか (△)	1 (0.4)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
～おいでになりましたか (◎)	3 (1.1)	0 (0.0)	3 (2.7)	3 (2.2)
～おいでにられましたか (△)	1 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)
～おいでですか (×)	2 (0.8)	2 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
～お越しになりましたか (◎)	5 (1.9)	3 (1.9)	2 (1.8)	2 (1.4)
～お越しにられましたか (△)	8 (3.0)	5 (3.2)	3 (2.7)	0 (0.0)
～お越しですか (×)	4 (1.5)	3 (1.9)	1 (0.9)	1 (0.7)
～来られましたか (○)	45 (17.0)	16 (10.4)	29 (26.4)	17 (12.3)
～参りましたか (×)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (13.0)
合計	264 (100)	154 (100)	110 (100)	138 (100)

〈表3-2〉を見ると、主な訂正文は「いらっしゃいましたか」と「来られましたか」となっている。「いらっしゃいましたか」と訂正した人は日本人、日本語学習者のいずれも一番多く、期待した結果である。「いらっしゃる」は上述したように例文11に対して適切な敬語表現である。「来られましたか」と訂正した人は二番目に多かった。「来られる」は、「来る」に尊敬の「～られる」を付けた尊敬表現である。しかし、「来られる」の尊敬語は軽い敬意を表すときよく使う表現で、敬意が足りないと考えられ、例文11についてはあまり適切ではない表現である。また、「動詞の未然形＋～(ら)れる」の表現は尊敬の意味以外に、受身、可能、自発の意味もあり、まぎらわしいため、避けた方がよいと考えられる。「いらっしゃられましたか」と訂正した人は日本人学生に1人いる。「いらっしゃられる」は尊敬語動詞「いらっしゃる」にまた尊敬の「～られる」を付けた形であり、二重敬語となっている。「敬語の指針」(2007)が二重敬語は「一般に適切ではないとされている」と述べているように、不適切である。

「おいでになりましたか」「おいでにられましたか」「おいでですか」という訂正文もあった。「おいでになる」は「来る・いる」の尊敬語として使われている。「おいでになる」について、菊地(1997)は、次のように述べている。

「おいでになる」は「お／ご～になる」の～の部分に「いで」が入った形にあたるが、こ



の「いで」は、古典語の動詞「出づ」（現代語「出る」の古い形）の〈連用形〉である。「出づ」をもとに「おいで」という尊敬の名詞形（「先生のおいでを待つ」などの「おいで」）ができ、これに「になる」が続いたものが「おいでになる」なのである。

したがって、「～おいでになりましたか」は例文に適切な敬語表現であるが、「～おいでになりましたか」は「おいでになる」+尊敬の「～られる」の敬語表現で二重敬語になるため、「敬語の指針」（2007）が示しているように、適切ではないと考えられ、避けるのが基本である。

「～おいでですか」は、「敬語の指針」（2007）によると、尊敬語「お（ご）～だ」の「だ」を丁寧語「です」に変えた「お（ご）～です」尊敬語の形である。「お（ご）～だ」は一般に動作の進行相を表す。例えば、「お読みだ（お読みです）」（「読んでいる」の尊敬語）、「ご存じだ（ご存じです）」（「知っている」の尊敬語）などのような進行中のことに使える。例文11は動作の完了であるため、不適切である。

「～お越しになりましたか」「～お越しになりましたか」「～お越しですか」の訂正文もあった。「越す」は「来る・行く」の意でよく使われる言葉である。「お越しになる」は「来る」の意での「越す」+「お～になる」による尊敬語表現で、例文11に対して適切な表現である。「お越しになれる」は「お越しになる」に尊敬の「～られる」を付けたものである。文法上問題ないが、二重敬語であるため、「おいでになりましたか」と同様に適切ではない。「お越しです」も「おいでです」と同じ理由で不適切である。

以上の訂正文以外に、「～参りましたか」という訂正文もあった。「～参りましたか」と訂正した人には、日本語学習者が18人（13.0%）いるが、日本人はゼロである。「参る」は謙譲語Ⅱで、相手の動作に使うことはできないため、「参りましたか」は例文11に対して不適切な表現となっている。「尊敬語と謙譲語の区別は分かるが、習った敬語動詞のうちどちらが尊敬語動詞で、どちらが謙譲語動詞か混同する 때가 多いです」（中国人学生、30代女性）という記述があった。このことから、日本語学習者には謙譲語Ⅱの「参る」の使い方が分からない人が少なくないと言える。

#### 5-1-4 例文9：（お弁当のシールに）電子レンジで温めると、いっそうおいしくいただけます。

例文9は、店が客に対して、「お弁当をおいしくいただけます」という表現が適切か否かが問題点になる。例文9の集計結果を〈表4-1〉、〈表4-2〉に示す。

〈表4-1〉例文9の集計結果（%）

	適切	不適切
日本人全体	53.0	47.0
日本人学生	55.8	44.2
日本人社会人	49.1	50.9
日本語学習者	72.5	27.5

〈表4-1〉の集計結果から、日本人社会人は適切と思った人と不適切と思った人が大体半々となっている。日本人学生は適切と思った人は不適切と思った人より11.6ポイント多い。日本語学習者は適切と思った人は72.5%と多い。

例文9の「いただけます」は「食べる・飲む」の意の謙譲語「いただく」の可能表現である。

店が客の動作に対して謙譲語「いただく」を使うのは不適切だと考えられる。適切な敬語表現は「食べる・飲む」の尊敬動詞「召し上がる」の可能形「召し上がれます」である。

菊地 (1997) によると、本来「いただく」は、飲食物を目上からもらう意で使われていた。その後、必ずしも目上からもらって「食べる・飲む」場合に限らず、単に自分の「食べる・飲む」行為をへりくだって述べる用法も生まれた。最近では、さらに「食べる・飲む」意の「いただく」が謙譲語としての性質を次第に失って、単に「上品」に述べるだけの「美化語」になるとする傾向を強めてきている。「食べる・飲む」意の「いただく」の性質の変化について、3つの例をあげて説明していく。

ア 私は、このごろはゲートボールのお陰で、何でもおいしくいただけます。

イ (ウェイトレスが客に) パンとライス、どちらをいただきますか。

ウ (食品に) 冷やすとおいしくいただけます。

菊地 (1997) によると、アは、I 人称者が主語なので本来の謙譲語と見ることのできる例だが、例えば相手と自分の双方が「食べる・飲む」ことを「さあ、いただきますよ」と言うのは、すでに謙譲語の性質を失っている面があるし、料理番組で「こうしますと、一層おいしくいただけます」などと「いただく」を頻用するのは、謙譲語というより美化語的である。(これは、「食べる」が以前は上品な表現だったのに今日では並の表現になってしまったことと関係がある)。だが、それでもなお謙譲語の性質をとどめていることも確かであり、II 人称者や高めるべきⅢ人称者が「食べる・飲む」ことを「いただく」と述べるのは、今日の時点ではやはり誤用というべきである。イとウがその例で、それぞれ「どちらを召し上がりますか」「おいしく召し上がれます」と言うべきである。以上のことから見ると、例文9の表現は誤用である。

例文9と訂正文の内訳を〈表4-2〉に示す。

〈表4-2〉例文9の例文と訂正文の内訳

実数 (%)

例文と訂正文	日本人全体	日本人学生	日本人社会人	日本語学習者
～温めるとおいしくいただけます (例文)	140 (53.0)	86 (55.8)	54 (49.1)	100 (72.5)
～召し上がれます (◎)	68 (25.8)	41 (26.6)	27 (24.5)	22 (15.9)
～お召し上がりになれます (◎)	7 (2.7)	4 (2.6)	3 (2.7)	0 (0.0)
～お召し上がりいただけます (○)	12 (4.5)	8 (5.2)	4 (3.6)	0 (0.0)
～召し上がることができます (○)	3 (1.1)	2 (1.3)	1 (0.9)	1 (0.7)
～召し上がっていただけます (○)	5 (1.9)	3 (1.9)	2 (1.8)	0 (0.0)
～召し上がってください (△)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.2)
～食べられます (△)	6 (2.3)	2 (1.3)	4 (3.6)	1 (0.7)
～お食べになられます (×)	2 (0.8)	2 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.7)
～お暖めになると (×)	4 (1.5)	2 (1.3)	2 (1.8)	1 (0.7)
～暖められますと (×)	3 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.8)	0 (0.0)
～美味しくなります (×)	8 (3.0)	2 (1.3)	6 (5.5)	9 (6.5)

～いただけると思います (×)	2 (0.8)	0 (0.0)	2 (1.8)	0 (0.0)
～よりおいしくいただけます (×)	4 (1.5)	1 (0.6)	3 (2.7)	0 (0.0)
合計	264 (100)	154 (100)	110 (100)	138 (100)

〈表4-2〉の訂正文の内訳を見ると、「召し上がれます」が一番多かった。日本人学生、日本人社会人いずれも2割台である。しかし、日本語学習者は15.9%となっている。前に述べたように、「召し上がれます」が期待されている訂正文である。

「お召し上がりいただけます」と訂正した人は、日本人学生と日本人社会人いずれも少数いるが、日本語学習者にはいない。「お召し上がりいただけます」は、店側（お弁当を売る側）として客に「おいしく食べてもらえる」という内容を敬語で述べたもので、「食べる」の意味上の主語は客なので、尊敬語「召し上がる」を使い、「～てもらう」の主語は店なので謙譲語「いただく」を使った的確な使い方である。「お召し上がりいただけます」の表現について、菊地（1997）は、「やや過剰敬語的だと感じる向きもあるようだが、私の語感では別に過剰敬語という感じはない」と述べている。

「お召し上がりになれます」「召し上がることができます」「召し上がっていただけます」と訂正したのは日本人学生と日本人社会人いずれも少数いるが、日本語学習者には「召し上がることができます」が1人いる以外、ゼロである。「敬語の指針」（2007）によると、「お召し上がりになれます」はもうすでに定着している二重敬語であるため、問題ないと考えられる。「召し上がることができます」「召し上がっていただけます」は文法上問題ないと考えられる。

また、「食べる」という動詞を使う訂正文もあった。「食べられます」は文法上問題ないが、敬意度が足りないという問題がある。「お食べになられます」という訂正文もあった。「お食べになる」について菊地（1997）は、「近年は、『お食べになる』と使う人もずいぶん増えている。言葉はしばしば一般化の傾向を強めていくものなので、「食べる」が謙譲語性を失ってすでに久しい今日、「お食べになる」が使われるようになるのも、自然な言葉変化というべきなのであろう。すでに誤りとは言にくいほどになりつつある」と述べている。

また、「美味しくなります」「お温めになると」「温められますと」「召し上がってください」「～よりおいしくいただけます」のような想定外の訂正文もあった。

## 5-2 敬語表現調査結果の考察

本調査とりあげた例文はいずれも謙譲語表現を尊敬語として使った誤用表現である。4つの敬語の誤用表現に対して、「適切」と思っている人はいずれも日本語学習者が一番多く、日本人学生、日本人社会人の順であった。つまり、日本人社会人はより敬語を正しく使っていると言えるであろう。

しかし、明らかな問題ある例文6には、4割に近い日本人は適切と判断し、例文10には、半数以上の日本人は適切と判断している。日本語母語者であるにもかかわらず、敬語を間違っただけで使っていることがよくあることが判明した。

例文9は、適切と不適切が日本人はだいたい半々となっている。仮に、「いただく」は美化語と考えれば、例文9の敬語表現はもはや「誤用」とは言い難く、むしろ「ゆれ」の段階であ

ろう。

また、謙讓語の尊敬語化がすすめば、謙讓語がだんだん使われなくなる傾向にあり、将来敬語のシステムが変わる可能性もあると考えられる。

## 6 まとめ

言葉は時代とともに変化するもので、敬語も例外ではなく、徐々に変化している。本調査の結果からも、敬語がだんだん変わっている姿が見える。その変化は敬語の誤用を招く場合が多い。敬語は言葉として、地域差や、性差、年齢差、職業差、個人差があるため、同じ場面、同じ状況でも、さまざまな敬語表現をする可能性もあり、それぞれ効果をもたらす。正解は一つではないというわけである。したがって、敬語使用には使い分けと寛容さが必要である。

本調査から、敬語研究者が指摘する敬語の「間違い」は、「誤用」ではなく、むしろ「ゆれ」、「慣用」の段階と言うのが妥当である。

しかし、学校教育と日本語教育の現場では、基本的に規範文法にそった正しい敬語を教える必要がある。

## 【参考文献】

- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない』 講談社  
 井上史雄 (2007) 『その敬語では恥をかく』 PHP研究所  
 奥秋義信 (2007) 『勘違い敬語の事典』 東京堂出版  
 菊地康人 (1997) 『敬語』 講談社  
 北原保雄 (2004) 『問題な日本語』 大修館書店  
 国立国語研究所 (2003) 『国立国語研究所報告120 学校の中の敬語 2—面接調査編—』 三省堂  
 スリーエーネットワーク (1999) 『みんなの日本語 初級Ⅱ』 スリーエーネットワーク  
 魏春娥 (2013) 「日本人と外国人日本語学習者の敬語使用に関する考察——アンケート調査結果の分析を中心に」 山口大学文学会発行『山口大学文学会志』 第63巻、pp.125-150  
 日本雑学能力協会 (2009) 『問題な敬語』 新講社  
 萩野貞樹 (2005) 『ほんとうの敬語』 PHP研究所  
 藤原栄智美 (2011) 「日本語学習者の敬語意識に関する事例研究」『茨城大学留学センター紀要』 9  
 文化審議会答申 (2007) 『敬語の指針』  
 文化庁 (1996・2005・2007) 『国語に関する世論調査』  
 宮田剛章 (2006) 「敬語動詞における日本語学習者の中間言語の量的研究—中国人および韓国  
 人学習者と日本語母語話者との比較から」『日本語科学』 19、国立国語研究所  
 宮岡弥生・玉岡賀津雄 (2002) 「上級レベルの中国系日本語学習者と韓国系の日本語学習者の  
 敬語習得の比較」『読書科学』 46 (2)、日本読書協会、pp.63-7  
 冷麗敏・丸山千歌 (2010) 『総合日本語第二冊』 北京大学出版社

(ギ・シュンガ)

別添資料

日本人と外国人日本語学習者の敬語に関するアンケート調査

次の表現を適切だと思ったら、( ) に○を付けてください、適切ではないと思ったら、適切ではないと思う箇所に下線をひいて、その下に正しいと考える表現を書いてください。

- 例 先生はいますか。  
( ) 正 ( いらっしゃいますか。)
- ( ) 1 赤ちゃんにミルクをあげます。  
正 ( )
- ( ) 2 お客様がお見えになりました。  
正 ( )
- ( ) 3 来週旅行でヨーロッパへ伺います。  
正 ( )
- ( ) 4 先生もコーヒーをお飲みになりたいですか。  
正 ( )
- ( ) 5 全商品お求めやすい価格となっております。  
正 ( )
- ( ) 6 明日の新年会にぜひご出席してください。  
正 ( )
- ( ) 7 (自宅で、来客が帰る時に) お気をつけて。  
正 ( )
- ( ) 8 (店舗の張り紙) 本日休業させていただきます。  
正 ( )
- ( ) 9 (お弁当のシールに) 電子レンジで温めると、いっそうおいしくいただけます。  
正 ( )
- ( ) 10 本日クーポン券がご利用できます  
正 ( )
- ( ) 11 どちらから参られましたか。  
正 ( )
- ( ) 12 (料理番組の司会者) ねぎを切ってください、水につけていただきます。  
正 ( )

その他、お気づきの点がありましたらお書きください。

国籍 ( ) 出身 ( ) 都、道、府、県

性別 (男、女) 職業 (学生、社会人)

年齢 (10代、20代、30代、40代、50代、60代以上)

外国人の方は日本語能力試験の成績 (1級、2級、3級、4級)

(N1、N2、N3、N4、N5)

ご協力ありがとうございました。